



これ(台)使って
高くしていい？

いいやん

ちょっと待って、
それは横にはらない？

エピソード

A児とB児と一緒に廃材でドラゴン作ろうとしていました。A児は胴体部分、B児は頭部部分をそれぞれ分担して製作していました。そこへやってきたC児は、製作している様子を羨ましそうに見ながら机の周りを2周した後、B児のおしりを触って覗き込んで笑い、B児も笑いかけました。しばらくしてC児はA児のところに行き、製作中のドラゴンに顔を近づけてじっくり見てから、「これすごいね」と声をかけました。すると、A児「ありがとう。C君も手伝ってくれへん？」と言い、C児「うん、いいよ」と嬉しそうに答えました。その後、A児「これ一緒に貼って」、C児「うん、どうやって貼るの？」と一緒に作る事を楽しんでいました。

B児も会話に入り「(胴体部分) これ使って高くしていい？」と聞かすがA児が「ちょっと待って、それ横に貼らない？」と提案するとB児・C児が「いいやん」と製作が進んでいきました。

子どもの育ちや学び

- ・「一緒にしたい」という思いの表現方法(行動→表情→スキンシップ→言葉)を変えていきながら友達に伝えようとする姿が見られました。
- ・2人から3人に増え、いろいろ言葉のやりとりをしていくことで遊びや考えの幅が広がっていきました。
- ・感じた事や考えた事を相手に伝え、お互い受け入れながら遊びが発展していく過程も楽しんでいました。



思いを受け入れてもらった嬉しさが相手の思いを受け入れることにも繋がりました。

保育者の思い

- ・友達と一緒に遊びたいと思っているけど、なかなか自分の思いを素直に言葉にできなかったり、どう伝えたらよいか悩んだりしていましたが、保育者は解決方法を知らせず見守り、友達とどうコミュニケーションをとっていけばよいかを自分で考えていくことを大事にしたいと思いました。

- ・友達と協力して1つの作品を作り上げる達成感を味わってほしいと思い「この工夫すごいよね」等具体的に認めるようにしました。

家庭だったら・・・

子どもは仕草や視線、表情で気持ちや考えている事を伝えようとしている事があります。

すぐに言葉が出なくても視線の先に目をやったり、表情から「何か伝えたそうだな」や「次はどうするかな？」と感じた時は、自分で考えようとしている間は少し待ってみると新しい子どもの一面が発見できるかもしれません。